

お見舞い申し上げます

台風19号の被害が継続していて、そればかりか新たな拡がりにもなり、報道に触れるたびにその爪あとの大きさを改めて感じさせられています。麻績村内でも避難を余儀なくされた方々がおられました。本校の先生方にも避難所に避難をしたり、ご自宅や自家用車などに被害を受けたりした方がありました。また、村内の子どもさんのお家の近くで崖崩れが起きたことも知りました。一步間違えば命にかかわる危険が迫っていながらも、どなたにもおかげもなくそれが何よりでした。心よりお見舞い申し上げます。

一日も早く安全な日常世活を取り戻せることをお祈り申し上げます。そして、まだ完全に安心できる状況でもないと思われれます。水分を多く含んだ地面が時間を経て崩落する危険、今後の雨量に影響される心配もまったくなしであるとは言い切れません。しばらくは危険察知への注意力を一層高めていなくては、と考えます。

すばらしい演奏の北部吹奏楽祭

14日(月)北部吹奏楽祭が筑北中学校で開催されました。台風の影響が少なからずあるにもかかわらず、大勢の保護者の方がお越しくださり、会場に入り切れないかと心配をするほどの盛会となりました。ありがとうございました。

今年度はトップバッターで演奏した麻績小学校です。行進も演出に加えたり、50周年を意識した「校歌」を編曲して演奏したりと、聴く側が最初から引きつけられました。そして「宝島」は、トランペットのソリ(※)演奏に続いて、パーカッションのメンバーが歩み出てノリノリ演奏を披露するなど、演出も曲調に合わせて楽しく工夫された演奏でした。わたしが強く感じたのは、「各パートの演奏力のバランスのよさ」「音の厚み」です。中低音のパートまでまんべんなく力があることを感じさせてもらいました。それは、どの子どもここまでの日々をまじめに着実に積み重ねてきたことを示して



いるのだと思いました。あの昨年の6年生（卒業生）からの引き継ぎから今日に至るまでの子どもたちの日々のがんばりの姿が思い浮かびました。上の学年から下の学年に教え伝える姿、重い楽器を持ち帰って休日に練習する姿、休み時間になるや音楽室に行って練習する姿、練習開始に間に合うように汗をかいて走って行く姿など。今年度の演奏のまとめとも言えるこの吹奏楽祭において最高の演奏ができたことは、何よりも子どもたちにとって大きな達成感と満足感につながったことと思われます。ご指導くださった中島先生を始め先生方、そして子どもたちを支えてくださったお家の皆様、これまでありがとうございました。（※ソリ演奏…概ねソロ演奏の複数形をあらわすそうです）

6年生に相談ごと

担任の草間先生にお願いして朝の会に時間をいただき、6年生の皆さんに相談をさせていただきました。なかみはこのようなことです。

- 1 12月の第3週あたり、6年生の皆さんが1週間、筑北中学校の教室で勉強する機会を設けたいのです。
- 2 6年生の皆さんと草間先生、田中先生が中学校へ出かけて、中学校の教室をお借りして、授業は小学校の勉強をします。
- 3 教室の中は今とそう大きくは変わらないし、勉強するなかみも普段と大きくはかわらない。けれど、一步教室を出ると、そこには中学生のお兄さんお姉さんがいて、中学生の生活が身近に感じ取れますぞ。
- 4 登校・下校の方法や給食のいただきかたなどについては、これから相談をして、よりよい方向を探ってみます。
- 5 まずは、このことについて皆さんはどう思うか聞きたいのです。

わたしは、「ええっ。そんなこと…（とんでもない）」という大揺れがあるかと少々構えていたところもあったのですが、子どもたちはどちらかと言うと「ふむふむ、なるほど」という空気で聞いてくれました。わたしがいては言い出せないこともあるかと思い、子どもたちの（苦情）聞き取りを草間先生にお願いして教室をあとにしました。あとでお聞きするとそういったこともなく、ほぼ受け入れてくれた様子でした。わたしは6年生の席で給食をいただいているのですが、「校長先生、部活の見学もできたらいいな」など建設的な意見を伝えてくれる子どもさんもありました（できますとも！）。

わたしは、まだまだ子どものことが分かっていないな、と思いました。わたしだったら「ええっ」の側の子もだったに違いありません。「大変だよ」「めんどくさいよ」「気が重いよ」「いずれ中学校の校舎に行くんだからさ」（わたしもなんとネガティブな…）と思えても無理ないと思います。しかし、麻績の子どもたちは先を見て、「今の時期に、草間先生やこの仲間と筑北中学校体験をしておいたら、4月からの中学校生活にプラスになるのでは」とこの提案を前向きに受け止めてくれたのでしょ。やっぱり6年生。

その日に向けて、今後準備を進めていくべきことはもちろんあるのですが、子どもの気持ちに向かないところでできることはありません。

また一つ、子どもたちの姿に学ばせていただいたわたしです。

